



伝統構法
に学ぶ

住まい がく 木 その11

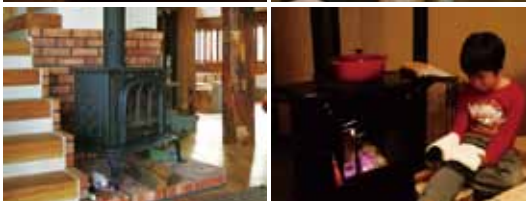
文・荒野一星

深化しつつ進化する

進化とは一体化の方向へと進み、分離から遠ざかる。一体であるというのは究極の真実であり、「進化」とは「真実への動き」の別名だからである。会を重ねる度に、参加者の気づきが深化していく、夢木香主催の見学会、セミナー。夢木香が、企業として着実に進化している、何よりの証しだろう。

暖の欲しくなる季節。伝統構法・自然素材の日本家屋には、やはり囲炉裏。そして薪ストーブだろう。

2年前の12月。大村湾に抱かれて建つ、建築家池田武邦氏宅。池田氏と対談するために東京から来られた増田一真氏と出版者の方々、他総勢9名で茅葺きの「邦久庵」にお邪魔した。囲炉裏の周りに車座になっての語らいの時。自在鉤の竹、天井部分の梁、茅も煤でとてもいい色工合。文字とおり艶っぽい。対談もさり気なく始まり、とて



薪の炎が蘇る。誰からともなく「火を見てるってのは、いいですね」の声。我々はすべて同じエネルギー。各々が違った表現として薪になり、火になり、媒になり、人になり、茅になる。生命はすべて振動。純粋なエネルギーであり、動きである。「存在」は、ものではなくプロセスであり、永遠に変化しつづける。静止しているものは何もない。そんな気づきの深まりを記憶している。

も自然な言葉のやり取り。時折、池田氏が太く長い火吹き竹を静かに吹く。勢いの落ちかけた

昨年2月末。佐賀の七山にあった古民家（米蔵、他）を移築再生した、福津市花見が浜の

今年2月26日。大和の古民家E家の土間。20日程前に取材で訪れた時には、物置然としてい

三原邸。入ってすぐ右の部屋には、大きな長方形の長火鉢型の囲炉裏。2階への階段脇、レンガづくりのコーナーには、どっしりと落ち着いた鉄製の薪ストーブ。炎が美しい。空間全体に和みの気が揺らめいている。この心地よい気の流れは、夢木香の手がけた建物すべてに共通のもの。つくり手のエネルギー波動と、住み手、使い手のエネルギー波動が自然に融け合っているのだと観じた。

た玄関横の土間が、あつという間に再生され、薪ストーブがさり気なく据えられている。もともとが伝統構法のしつかりとしたつくりだけに、再生も早かったのだろう。それにしても、だ。自然木そのもののセンターテーブル、丸木を切っただけの椅子。生活空間が違和感なく薪ストーブ展示会場になっていたのには、正直驚かされた。子育て真っ最中の若いEさんご夫婦の観性がうれしかった。

20年前に創刊された月刊誌「田舎暮らしの本」が、通巻240号で公称10万部。9年前に創刊された季刊誌「自休自足」が通巻35号。今月号の「BRUTUS Casa」の特集が、「森へ、海へ！みんなの移住計画」とある。今、人々はまらがないと思出し（REMEMBER）はじめている。自分が全体と繋がっていることを、すべての「他者」、そして「生命の源」と本質的に結びついていることを。再び（RE）ひとつになる（MEMBER）ために。

有限会社 夢木香

日本民家再生協会正会員
佐賀県鹿島市大字三河内甲 2847
http://www.yumekikou-happy.com
☎0120-835-832
TEL:0954-69-8333 FAX:0954-69-8334
E-mail:yumekikou@globe.ocn.ne.jp

第10回 夢木香セミナー 薪ストーブのある暮らし展 薪のあたたかさを感じる住まい

日時/ 11月12日(土)
13日(日)
10:00~17:00
場所/ 佐賀市大和町

- 会場の近くに看板を設置いたします。
- 当日、場所など分からない場合は左記までご連絡ください。



土壁 佐賀 または 子どもたちが喜ぶ家 検索



当日は温かいスープをご用意しております。お気軽にお越しください。